

宮岸 真澄（特定非営利活動法人精神障害者回復者クラブすみれ会理事長）

精神病院の構造そのものが人権侵害を生む

- 精神病院の中が外からよくわからないのが問題である
- 外部から自由に入っていけない
- 家族以外の見舞いを認めないことが多い
- ベッドサイドまで行けない
- ブラックボックスになっている
- 電話はついているが、まるっきり自由に使えるわけではない
- 職員に配慮しなければ使えない
- 携帯電話はどれくらい普及しているのだろうか
- まだ電気けいれん療法や、保護室が存在する
- 治療の一環とされているが、懲罰に化けることがある
- 保護室にいて楽しいと思えるか
- 便器のくそは自分で流せない
- そこで飯を食わねばならない
- 治療の場なのか、それとも収容するための場なのか
- 医者には突然、保護室に閉じ込められるという体験を持ってもらいたい。それも力づくで
- たぶんこれは違法になる
- 法律が許しているから、私達精神障害者を閉じ込めることができるのだ
- 精神病院の中には、日本国憲法は届かない
- 自分の身体の自由が決定されるのに、自分の立場で弁護してくれる人はいない
- 指定医の判断だけで決まってしまう
- これはおかしい
- 同じように身体を拘束する刑事裁判だって、弁護士がつくではないか
- 精神保健福祉士と弁護士は大きく違う
- 精神保健福祉士は病院から独立していない
- あくまでも医師の判断である
- だいたい病院から給料をもらっている
- はっきり言って病院のポチか
- チーム医療といってもリーダーはあくまで医師なのだ
- 他職種とは指示・指導の関係にある
- 他の現場にいる精神保健福祉士が、医師の決定に口をはさむのもまた難しい
- 友人が医療保護入院になった時は悔しい思いをした
- 私には抗弁できなかった
- 保護者には家族と自治体の長しかなれない

- 友人には法的権利はない
- 法的に拘束しなければならないとは思えなかった
- 面会できる人まで選んでしまった
- 他の科では考えられないことである
- まだまだ患者会の力は弱い
- 医療上の配慮という言葉がつけばどんなことでもできるのか
- 退院を決める権限を持っているものにはかなわない
- しつこく退院のことを言うと、訴えが多いと言われてしまう
- そして退院が延びてしまう
- たくさん入院させておくことが病院の儲けになるのだと思う
- そして院長先生の御殿ができあがる
- 病院は社会的入院の人達を退院させる気が無い
- そうさせてしまったのは病院に責任があるのに
- もうシャバのことを忘れかかっているのに、急に退院のことを言われても、不安でいっぱいになってしまうと思う
- もう長いこと伸びていないラーメンも生寿司も食べていないと思う
- 生活保護でもそれくらいは食べられる
- 好きなテレビ番組を心ゆくまで見ることができる
- すべてあきらめて、病院に順応する必要はない
- 17年入院して、退院してきた人がいる
- 68歳だけど、元気にすみれ会に通ってきている
- 彼はお母さんのところに帰ることをあきらめなかった
- 私は彼にはがきを出し続けた、140通ぐらいにはなっていると思う
- 返事が返ってくるわけではなかったが、とにかく出した
- みんなの協力もあって、うまくすみれ会に順応している
- 作業にも参加している
- 彼は本当に17年間も精神病院にいなければならなかったか
- 精神病院は老人ホームではない
- 私も年老いたときは、普通の老人ホームに入りたい
- お年寄りの終の棲家に、ベッドに縛り付けることのできる精神病院がなくていいわけがない
- 炭鉱をつぶしていったように精神病院をつぶすべきだ
- 精神病院が潰れていっても社会にそんなに影響はない
- 地域移行の司令塔は、地域に通じている者になるべきだ
- 医師ではない
- 当事者と生活感覚が共通する者でなければならない

- 当事者がどんな所に住み、どんなものを着て、どんなものを食べているのか
- 地域に住む当事者の力を借りることである
- 当事者の経験知を大切にすることである
- 実際に地域で暮らす知恵を持っている
- 力量のある当事者が司令塔になれば理想かもしれない
- 当事者の「助け合い」の力を侮ってはいけない
- 当事者は団結しなくてはいけない
- 自分達の居場所を確保しなくてはいけない
- 病院と、自分の住む場所の他に
- 社会的入院者が存在することそのものが、大きな人権侵害だと思う
- やはり、そうしてしまった人達は謝罪をし、償いをしなければならない
- ハンセン氏病の人達にしたように
- 社会に帰っていく人のために十分な支援がなければならない
- 人権を制限して行う医療である以上、公的な部門が担うべきだったと思う
- 日本国は政策を間違えた
- PSW 自身も大した力にならなかった事について反省すべきだ